

すき くわ 鋤と鍬

2024年度 第一号

○農業推進係、東部普及指導第一係、同第二係
〒527-8511 東近江市八日市緑町7-23
TEL 0748(22)7727・7728
FAX 0748(22)1234

○西部普及指導係
〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL 0748(46)6504
FAX 0748(46)7411

近江米新品種「きらみずき」本格デビュー！

「きらみずき」は、夏季の高温や大型の台風などの気候変動下で安定した生産を目指して育成され、今年、本格デビューを迎えます。

【推進コンセプト】こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」

【生産】高度な技術を持って、オーガニックをはじめ、化学合成農薬や化学肥料を可能な限り削減した栽培に限定



【消費】“おいしさ”とともに、温暖化防止・生物多様性の保全など一歩進んだ取組の価値に共感し「きらみずき」を支持、購入



「きらみずき」は、大粒でしっかりとした食感と瑞々しい甘さが特徴です。また、栽培方法を環境こだわり栽培よりもさらに化学肥料・農薬を削減したものに限定しています。「きらみずき」が、おいしさとともに、持続可能な農業の実践という近江米の一歩進んだ取組の価値に共感、支持いただける消費者に選ばれる品種となるよう、生産・流通・販売が一体となって推進します。

今年度、東近江地域では生産者115名で、県内作付面積の40%となる約80haが栽培されています。

当課では、JAをはじめ関係機関と連携し、収量確保を目的とした実証ほを設置、調査しています。また、穂肥や収穫期の現地研修会の開催や栽培技術に関する情報を発信していきます。

さらに、令和7年産「きらみずき」のさらなる生産拡大に向けた説明会を8月と10月に開催する予定です。令和7年産「きらみずき」の栽培を希望される方、興味のある方はぜひご参加ください。



現地研修会の様子

P2 加工用キャベツの低コスト省力化技術の現地実証を行いました！

P3 あなたも「みおしずく」栽培に取り組んでみませんか？ 飼料作物「子実用とうもろこし」の可能性と課題

P4 令和6年度に認定された指導農業士の方を紹介します！ 「楽しいクラブに！」～東近江青年農業者クラブ～ 農業経営について専門家に相談してみませんか？

加工用キャベツの低コスト省力化技術の現地実証を行いました！

東近江地域では、麦跡を活用したキャベツ栽培が盛んです。JAグリーン近江管内では、11～3月出荷の秋冬作を中心に56haで加工業務用キャベツが栽培されています。キャベツは野菜の中でも肥料を多く必要としますが、昨今の肥料価格の高騰が生産者の経営を圧迫しており、肥料などの生産資材の削減で低コスト化が求められていました。

そこで、当課は令和5年度、JAグリーン近江と連携し、リン酸肥料の削減が期待できる「セル成型苗への定植前リン酸施用技術」と、育苗のかん水にかかる労働時間を大幅に削減できる「底面給水育苗技術」を組み合わせた低コストで省力的な技術体系の実証をJA管内4か所^{*}で行いました。

① セル成型苗への定植前リン酸施用技術

定植直前に行う殺虫剤のかん注液にリン酸液肥を混用しセル苗にかん注することで、土づくりとして施用するリン酸資材を削減することができる技術です。

今回の実証区の球重は、慣行施肥と比べて差がなく(図1)、リン酸を減らしても、大きな収量の減少はありませんでした。

これによりほ場への資材散布作業の省力化とリン酸資材代(重焼燐20～40kg/10a)の削減が可能となりました。

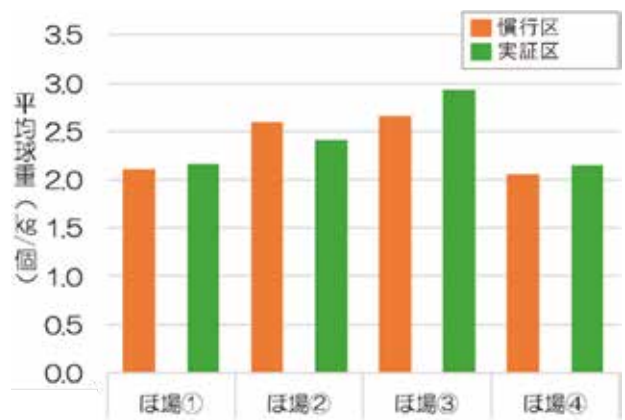


図1 セル成型苗への定植前リン酸施用の効果

② 底面給水育苗技術

夏季の高温時に行われる秋冬野菜の育苗は、生育にムラが発生しやすく、人による手かん水は多くの時間を要し、作業者の労働負担となっていました。

セルトレイの底面から給水させることで生育ムラが解消され、タイマーを併用することで灌水作業の省力化が図れました(図2)。

手かん水による育苗と比べて、やや育苗日数はかかりましたが、苗質に影響はありませんでした。

(※今回の実証ほは、キャベツ作付け前にリン酸が30mg/100g乾土以上あったほ場。)



図2 底面給水育苗の構造



現地の底面給水育苗の設置例

リン酸削減に興味がある方は、当課までお問い合わせください。

あなたも「みおしずく」栽培に取り組んでみませんか？

滋賀県では、平成28年から5年の歳月をかけて、県で初めてとなるオリジナルイチゴ品種「みおしずく」を育成しました。この品種は、大粒で明るい赤色をしており、フローラルな香り、適度な酸味により甘さが際立つ味わいが特徴です。

本格デビューとなった令和5年度は、初めて栽培される生産者が多かったため、栽培研修会や出荷研修会の開催を通じて、良品生産を支援してきました。既に令和6年度の栽培が開始しており、今後は当課Facebook等で情報提供を予定しています。

滋賀県では「みおしずく」を県の統一品種としてJA等関係機関と連携し、県下一産地での市場出荷を推進しています。9～10月に「みおしずく」生産者の募集を予定していますので、栽培に興味がある方はお気軽に当課までご相談ください。



栽培研修会の様子



出荷された「みおしずく」



開発ストーリーはこちら→



飼料作物「子実用とうもろこし」の可能性と課題

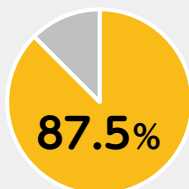
重要な家畜飼料の一つである「子実用とうもろこし」は、その多くを輸入に頼っていましたが、近年は国内で生産が拡大しています。東近江地域でも2年前から作付けが始まり、その取組は前号(令和5年度「鋤と鍬」第二号)で紹介したところでした。

そこで今回は管内の養鶏農家(9戸)を対象に、子実用とうもろこしについて需要調査を行いましたので、その結果を紹介します。

R5「鋤と鍬」
第二号はこちら

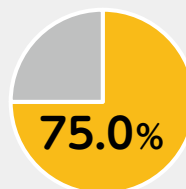


Q 国産の購入に興味がありますか？



興味がある…87.5%
未定 …12.5%
興味がない…0%

Q 国産は付加価値があると思いますか？



思う …75.0%
わからない…25.0%
思わない …0%

以上の結果から、養鶏農家の国産子実用とうもろこしに対する関心の高さがうかがえました。しかし、子実用とうもろこしは、1年を通じた安定的な供給には至っておらず、生産、流通、保管面に課題があります。

今回の調査結果から、管内においても需要があり、子実用とうもろこしは今後の農業経営における有望な品目になると言えるでしょう。



令和6年度に認定された指導農業士の方を紹介します！

滋賀県では、農業技術・経営管理能力に優れ、新たな担い手の育成を通して地域農業の振興に御協力いただける方を「滋賀県指導農業士」として認定しています。今春、新たに東近江市の長澤さんが認定され、管内の指導農業士は29名となりました。



長澤 祐(ながさわ ゆう)さん

経営類型: 水稻、麦、大豆、露地野菜

水稻を中心とした複合経営に取り組み、年間を通しての収益確保を行い、大豆においては販売単価の高い黒大豆の作付により、経営の安定化を図っておられます。認定にあたり、「人との繋がりを大切にし、地域農業の維持やスムーズな農地集積の流れを作りたいと思います！」と抱負を語っていただきました。

「楽しいクラブに！」～東近江青年農業者クラブ～

東近江青年農業者クラブは、東近江地域の若手農業者や農業法人の従業員など、農業に関わる若者で構成される組織です。現在のクラブ員は20～30代の16名で、稲・麦・大豆、野菜、花き、果樹、畜産など様々な経営部門のクラブ員が交流し、絆を深めて助け合える関係づくりや、資質向上のために活動しています。

今年度は楽しいクラブをモットーに、勉強会や先進地視察等を行います。興味がある方は、農産普及課までお声掛けください。



先進地視察の様子

農業経営について専門家に相談してみませんか？

当課では、「しがの農業経営・就農支援センター」を設置し、経営改善を目指す農業経営体を支援しています。経営相談をお申しいただいた方にはそれぞれが抱える農業経営課題に応じた様々な分野の専門家(中小企業診断士、税理士など)を派遣します(無料)。



①法人化(税理士・中小企業診断士等)

- ・法人化すべきか(メリット・デメリット)
- ・登記手続をどうしたらよいか
- ・法人へ移行する際の注意点は何か

②経営改善(中小企業診断士等)

- ・現在の経営状況を知りたい
- ・作業を効率化し生産性を向上したい
- ・中期計画の立て方を教えてほしい

③雇用・労務(社会保険労務士等)

- ・就業規則の作成の仕方について知りたい
- ・社会保険制度を整備したい
- ・従業員の満足度を高め、定着させたい

④経営継承(税理士・中小企業診断士等)

- ・継承の流れ・注意点がわからない
- ・継承にあたり法人化すべきか
- ・第三者継承する際の注意点は何か

(注)相談内容によっては専門家を派遣できない場合があります。

2024年度 第一号 発行 東近江農業農村振興事務所農産普及課 発行責任者 西村 誠